

松崎市長新春インタビュー

小浜を研く

未来を見据えた魅力あるまちづくり

正月にチャンネルOで放送した市広報企画番組から抜粋して掲載しています



元号が変わり、小浜美郷小学校の開校、北陸新幹線小浜・大阪間の概略ルート決定、新たな形態の農業に向けた取り組みなど、時代の転機を迎えた令和元年。次代の飛躍につながるまちづくりを、松崎市長が語る――

私は就任3期目の公約として「小浜を研く」を掲げ、①産業をみがく、②観光をみがく、③文化・教育をみがく、④生活をみがく、⑤行政をみがくの実現のため、各種施策を進めています。

「産業をみがく」について

中心市街地の活性化について、小浜駅からまちの駅を経由し、海の駅や三丁町方面へ向かう特定エリアの空き店舗を活用した業者を対象とする補助制度を創設しました。昨年にはこの制度を利用して飲食店1店舗が駅通り商店街にオープンしており、今年はさらに1店舗が開業する予定です。

企業誘致について、これまでに3社の植物工場を誘致し、市内の雇用の確保・拡大を図りました。昨年中に開業した工場では14人の雇用が創出され、現在建設中の工場では、15人の新規雇用が見込まれています。引き続き、多種多様な業種の企業誘致を促進し、雇用確保に努めていきます。

高水準の有効求人倍率が続くなか、小・中・高校生に地元企業を知ってもらうため、企業の見学や経営者による

の一時退出が可能な重点道の駅にも選ばれており、市内への玄関口として観光交流人口の拡大につなげていきます。

「文化・教育をみがく」について

昨年の春には松永・国富・遠敷・宮川の4小学校を統合し、小浜美郷小学校が開校しました。県産材を活用した温もりのある空間が特徴で、一人ひとりの資質や能力を伸ばしていくための環境が整っています。11月に参加した市音楽会では、大勢で迫力のある、きれいなハーモニーの合唱を披露し、保護者や教員からの評価も高く、児童も大変喜んでいたと聞いています。

一方で、閉校となった4校は、地域のシンボルでもあり、小学校の歴史は地域の歴史そのものであったと思います。各校それぞれの閉校式典では、多くの地域の皆様にご出席いただき、長い歴史の中で多くの子どもたちを育み、皆様に愛されていた小学校であったことを再認識したところです。

文化財については、近年は全国的に保存優先から活用へと方針転換が進んでおり、本市の2つの日本遺産を生かした地域活性化の取り組みは全国のモデル事業として注目を浴びています。今年3月には、いづみ町に「鯖街道ミュージアム」がオープンするほ



新たに開校した小浜美郷小学校には、市内最多の300人超の児童が通う

か、本市の数多くの文化財を守り、観光や地域活性化につなげる住民アクションプラン「文化財保存活用地域計画」を、全国に先駆けて策定する予定です。市民が一体となって地域の歴史文化を守り、伝え、生かしていくことで、食のまちづくりともリンクした全国に類のない地域活性化の大きなポイントになると考えています。

「生活をみがく」について

防災については、頻発する集中豪雨災害から市民の生命や財産を守るため、河川整備が重要な課題であると考えています。今後も国や県に対して、河道掘削や、江古川の輪中堤の早期完成などの治水対策を着実に進めるよう要望するとともに、市でも地域における小河川の浚渫や雨水排水の整備などに取り組みます。また、災害時に重要な「自助・共助」の活動を後押しするため、自主防災組織の強化・充実や、

講話を行っています。

農業振興では、人口減少・高齢化が進む中、従来の経験と勘に基づく農業から、データに基づく農業への転換を図るため、宮川地区でIoTなどの新技術を活用したスマート農業の実証実験に取り組んでいます。また近年、農地中間管理機構と連携して農地を大区画化し、収益性の高い経営を目指す新たな土地改良事業が創設されました。昨年、県内で初めて飯盛地区で事業が開始され、他の地域でも前向きな話し合いが進んでいます。



スマート農業の現場を視察し、自動運転コンバインに試乗する杉本県知事

水産振興では、市が行っていたサバの養殖事業を、昨年設立された田烏水産株式会社が担うこととなりました。地元の産業としての定着を目指して着

今年設立が予定されている「小浜市防災士の会」との連携など、地域防災力が強化されるよう支援を行います。

道路整備について、現在工事が進む小浜縦貫線の整備をはじめ、西津橋・大手橋の架け替えなどについて、早期完成に向け引き続き努力します。

健康管理センターは、現在の建物が建設から約40年を経過し老朽化が著しいことから、施設のリニューアルが喫緊の課題となっています。市では、市民の健康づくりを支援し、妊婦や子育て世代、高齢者の人々が集う憩いの場となる「新・健康管理センター」の整備を進めており、今年度は基本設計に取り組んでいます。令和2年度には建物の実設計を進める予定で、令和5年4月の供用開始を目指します。

「行政をみがく」について

まちづくり協議会では、地域の課題解決や特色を生かしたまちづくりに取り組んでおり、市としてもその活動を今後も支援していきます。

若狭町以西の4市町で広域ごみ焼却施設建設に取り組んでいます。高浜町の清掃センターを解体後、その跡地に建設を予定しており、令和4年度末の完成を目指しています。

また、火葬場については、詳細は未

実に成果を上げており、今年度は小浜よっぱらいサバの出荷尾数が初めて一万尾を超える見込みです。市内の取扱店舗数も増え、京都での販路拡大にも取り組んでいます。

食のまちづくりでは、新たな展開として、地域おこし協力隊の制度を活用して、料理人を育成し、定住人口・交流人口の増加につなげる「御食国の学校」の設置を進めています。設置に先立ち、県内外の大学生や専門学校生10人を対象に、市の食文化などに関する講義や、市内飲食店での研修、農業の体験など、多様な実習を盛り込んだインターンシップを実施しました。

「観光をみがく」について

北陸新幹線敦賀開業に向けたJR小浜駅前の環境整備として「小浜市インフォメーションセンター」を開設しました。ガラス張りの開放的な空間が特徴で、オープン以来、観光客や地元の高校生でにぎわいを見せています。また、外国人観光客に対応するため、英語が話せる職員を配置し、多言語に対応できるタブレットを設置しています。

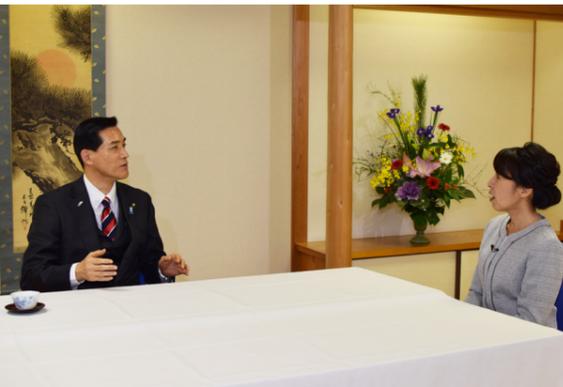
道の駅「若狭おばま」については、交通結節点としての機能強化を図っており、この春にはバスターミナルの供用を開始する予定です。高速道路から

定ですが、令和6年度中の完成を目指し、おおい町・高浜町との協議を進めています。

今後の抱負

北陸新幹線の敦賀開業は、またとない大きなチャンスです。今年「小浜を研く」の集大成として、敦賀、そして小浜開業後の未来を見据えて、敦賀開業からの切れ目ない着工に向けた要望活動を積極的に進めるとともに、交流人口の拡大や地域経済の好循環に向けた施策に市民一人ひとりの力を得て取り組みたいと思います。

その先に、市民の満足度向上、安全安心の暮らしとなる未来があることを信じて、魅力あるまちづくりに全力で取り組んでいきます。



聞き手/坂口みゆき アナウンサー(チャンネルO・12月18日)